

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

【実践者】

氏名	吉元 恵那	学校名	千葉県立桜が丘特別支援学校
担当教科等	各教科等合わせた指導	対象学年（人数）	中学部 1・2・3 年（10 名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2025 年 10 月 27 日～11 月 12 日（18 時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：生活単元学習		
2. 単元名と単元目標 単元名：バングラデシュを知ろう～バングラマスターを目指して～ 単元目標： ・バングラデシュの言語や食事などの文化について、視覚的・体験的な活動を通して基本的な知識を得ることができる。 ・バングラデシュの人々の生活や文化を日本と比較し、感じたことや考えたことを表現することができる。 ・バングラデシュの文化や人々に親しみをもち、外国の人々とのつながりに関心をもって学習に取り組むことができる。 関連する学習指導要領上の目標： 社会 ・中学部 1 段階 カ外国の様子－（ア） ⑦ 文化や風習の特徴や違いを知ること。 ⑧ そこに暮らす人々の生活などに着目して、日本との違いを考え、表現すること。 ・中学部 2 段階 カ外国の様子－（ア） ⑦文化や風習の違いを理解すること。 ・中学部 2 段階 カ外国の様子－（イ） ⑦人々の生活の様子を大まかに理解すること。 美術 ・中学部 1 段階 A 表現－ア （ア）経験したことや思ったこと、材料などを基に、表したいことや表し方を考えて、発想や構想をすること。 外国語 ・中学部 イ 日本と外国の言語や文化に慣れ親しむこと （ア）体験的な活動を通して日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知ること。 家庭 ・中学部 1 段階 B衣食住の生活－イ （ア）簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようにすること。		
3. 単元の評価 規準	①知識・技能	手順に沿って日本とバングラデシュの米を炊飯することができたか。
	②思考・判断・表現	日本とバングラデシュの米の種類や炊き方の違いに着目し、感じたことや気付いたことを表現することができたか。
	③主体的に学習に取り組む態度	バングラデシュの食文化に親しみをもち、外国の人々の生活に関心をもって学習に取り組むことができたか。

4. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	【単元設定の理由】 令和7年度より推進されている第4期千葉県教育振興基本計画では、「郷土と国を愛する心とグローバル化への対応能力の育成」(施策6)が掲げられており、直接外国の文化に触れたり国際交流を行ったりすることを通して、国際理解を深め、国際社会の一員としての自覚を高めることが求められている。 本校においても、ユネスコスクールへの認定を契機にESD教育(持続可能な開発のための教育)が積極的に推進されている。世界や外国の文化を身近に感じ、具体的な体験を通して理解を深める学習の設定が必要であると考え、本単元を設定した。 【単元の意義】 本単元では、バングラデシュを取り上げ、食文化・言語・宗教など日本との違いを学習した。生徒が実感を伴って外国の文化や人々の暮らしを理解できるように、すごろく、現地で調達した米を用いた調理学習など体験的な学習を多く取り入れた。これらの学習を通して、国際理解を深めるとともに、ESDの視点から世界と自分とのつながりに気づき、持続可能な社会の担い手としての基礎的な資質・能力を育成することが本単元の意義であると考えます。 【生徒観】 本学習グループは、男子3名女子7名で構成されており、知的障害教育の教育内容を取り入れた教育課程で学んでいる。国籍は、日本国籍の生徒が9名、スリランカ国籍の生徒が1名となっており、スリランカ国籍の生徒は、宗教的な理由から弁当を持参している。コミュニケーション面については、日常会話が可能で生徒が6名、言葉が不明瞭であるが簡単な会話ができる生徒が2名、発声や挙手、○×などの簡単なサインで答える生徒が2名いる。生徒は、移動の困難さなどの障害特性に起因して、遠方へ出かけたり、異年齢・異校種の生徒と関わって自身とは異なる考え方や価値観に触れたりする経験は少ない。このような理由により、国ごとに異なる文化や言語があることへの理解は十分とはいえず、具体的で体験的な学習を通して視野を広げていく必要があると考えられる。 【指導観】 外国について初学者である生徒が多い実態を踏まえ、親しみのある日本から段階的に学習内容を国外へ広げてきた。渡航経験のない生徒でも、異文化への関心をもつことができるように、挨拶・食事など現地の文化を体験的に学ぶ活動を通して、学習を行った。また、生徒が学習の達成感を味わうことができる手立てとして授業の終わりにはバングラデシュの国旗シールを学習カレンダーに貼る活動を取り入れた。 本時では、バングラデシュ産の米を用いて、日本とバングラデシュそれぞれの国の米の種類や炊き方について学習する。食は生徒たちにとって日常的に親しみのあるであり、両国の主食が米であるという共通点を通して、異文化への理解を深めることができる。更に、生徒の興味関心を高めるため、学校栄養士の協力を得て、10月31日の給食献立にバングラデシュ料理を取り入れた。視覚だけでなく、手触りや嗅覚などを活用した体験的な学習を通して、生徒が外国の人々に思いを馳せ、親しみをもって活動に取り組むことをねらいとした。
---	---

5. 単元計画（全 18 時間 1 コマ 2 時間続き）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	日本について知っている？	- クイズや、遊びの体験に興味関心をもって参加することができる。 - 日本の国旗や文化について、気付いたことを発表できる。	- 日本クイズ（文化、場所）に取り組む。 - 日本のかるたとりを体験する。 - 日本国旗を描き、国旗に込められた意味を知る。	- パワーポイント - 国旗かるた - ワークシート - 国旗シール
2	バングラデシュはどこにある？	- 地図を確認してバングラデシュの位置を知ることができる。 - Made in Bangladesh 探しに進んで参加することができる。	- バングラデシュの場所を地図から探す。 - Made in Bangladesh の物を身近な服のタグ等から探す。	- パワーポイント - 世界地図 服、ズボン - ワークシート - 国旗シール
3	バングラデシュはどんな国	- 国旗の違いや特産品を知り、感じたことを発表することができる。 「Amra Korbo Joy」に親しみをもち、歌うことができる。	- バングラデシュクイズ(国旗・特産品)に取り組む。 - バングラデシュの特産品である服やジュートのバッグを触る。 - バングラデシュの歌「Amra Korbo Joy」を聴く。	- パワーポイント - 現地で購入した服 - ジュートのバッグ 「Amra Korbo Joy」動画 - ワークシート - 国旗シール
4	バングラデシュの暮らし	- 気候や文化について知ることができる。 - バングラくらしすごろくに友達と一緒に取り組むことができる。	- バングラデシュクイズ(気候・文化)に取り組む。 - バングラくらしすごろくに取り組み、イスラム教の人々の生活を知る。	- パワーポイント - バングラくらしすごろく - ワークシート - 国旗シール
5	バングラデシュの食べ物①	食べ物について、日本との相違点を考えたり、発表したりすることができる。	- 写真を見比べて、日本との食の相違点を見つける。 - マンゴーバーを触ったり、チャイのにおいを嗅いだりする。	- パワーポイント - マンゴーバー - 紅茶（ブラック、マサラ） - ワークシート - 国旗シール
6 本時	バングラデシュの食べ物②	- バングラデシュの米の炊飯方法を知り、炊飯を行うことができる。 - 炊飯方法や調理した米を見て、日本との相違点を発表できる。	- バングラデシュの米の炊き方を知り、炊飯をする。 - 日本の米とバングラデシュの米を炊飯して、相違点を考える。	- ミニケット米（バングラデシュ） - ジャポニカ米（日本） - パワーポイント - 炊飯動画 - 手順表 - ワークシート - 国旗シール

7	バングラデシュの文字	・かるたの札を作成するなどの活動を通して、ベンガル語に親しみをもつことができる。 ・「バングラデシュ言葉かるた」に意欲的に取り組むことができる。	・現地の教科書（社会科）を見て、何の教科書であるか予想する。 ・かるた札作りを行いながらベンガル語について知る。 ・作成したかるたを使って、ゲームに取り組む。	・パワーポイント ・現地の教科書（Grade4 社会科） ・かるた札 ・国旗シール
8	バングラデシュの友達に手紙を送ろう！	・現地の生徒（Dream School）へ向けて伝えたい気持ちを、イラストで表現できる。 ・現地の人に思いを馳せ、親しみや関心を持つことができる。	・Dream School の写真や、生徒が描いたイラストを見て、感じたことや考えたことを発表する。 ・現地校の生徒へ向けて手紙を作成する。	・パワーポイント ・Dream School の生徒からもらったイラスト ・紙 ・色鉛筆 ・色ペン
9	バングラデシュまとめ	・食文化、言語など今まで学習してきたバングラデシュと日本の相違点について発表することができる。 ・異なる国の人々について興味をもち、積極的に活動に取り組むことができる。	・これまでの学習を、スライドを通して振り返る。 ・バングラデシュクイズ（単元の中で実施したもの）に取り組む。 ・バン格拉マスター認定証授与式を行う。 ・世界地図を見て、様々な国の挨拶について知る。	・パワーポイント ・バン格拉マスター認定証 ・地図（世界のことでこんにちは）

6. 本時の展開（11, 12 時間目）

本時のねらい：手順に沿って日本とバングラデシュの米を炊飯し、違いや気付きを表現しながら、バングラデシュの食文化に親しみ関心をもって学習に取り組む。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）
導入 (20分)	○始めの挨拶 日本語とベンガル語で挨拶。 ○「Amra Korbo Joy」を歌う。 ○今日やることを確認 ○前時までの振り返り パワーポイントの写真を見ながら、マンゴーバー・紅茶について振り返る。 ○バングラデシュの食 バングラデシュの主食や食べ方についてクイズ形式で出題する。	・日直に挨拶を依頼する。 ・ベンガル語の挨拶をする。 ・「Amra Korbo Joy」を動画で流す。 ・スライドを提示する。 ・チャイやマンゴーバーを見ながら振り返る。 ・バングラデシュ料理の画像を提示する。 ・10月31日の給食を振り返る。 ・バングラデシュの食クイズを行う。

展開	○日本のお米の炊き方 - 日本の米の炊飯工程の手順をグループで考え、発表する。 ○お米を炊こう① - 炊き方の手順を確認する。 - 日本の米を炊飯器で炊く。 ○終わりの挨拶 ○トイレ・水分休憩 ○始めの挨拶 ○バングラデシュの米の炊き方 - 日本の米の炊飯工程の手順をグループで考え、発表する。 ○お米を炊こう② - 炊き方の手順を確認する。 - バングラデシュの米を鍋で炊く。 ○炊いたお米を確認しよう - 日本の米とバングラデシュの米にはどのような違いがあるかグループで話し合う。 ○活動の振り返り - 日本の米とバングラデシュの米を比べて感じたこと、炊いた感想を発表する。 - 学習カレンダーにシールを貼る。 ○終わりの挨拶	- 米の炊飯工程が書かれたカードをグループごとに配る。 - 発表者に注目できるよう MT は声をかける。 - 炊き方の手順を確認する。 - 安全に調理を行うことができるように必要に応じて支援を行う。 - 休憩時間にそれぞれの調理台に鍋を設置する。 - 米の炊飯工程が書かれたカードをグループごとに配る。 - バングラデシュの米の炊き方動画をテレビで流す。 - 事前に炊いた米を提示する。 - 触ったり、匂いを嗅いだりして確かめられるようにする。 - 比較が難しい生徒には個別に言葉かけをする。 - グループで話し合う機会を設ける。 - 発表者に注目できるように MT は声をかける。 - バングラデシュの国旗シールを配る。
まとめ		

7. 資料（教材）

○学習カレンダー



○手順表

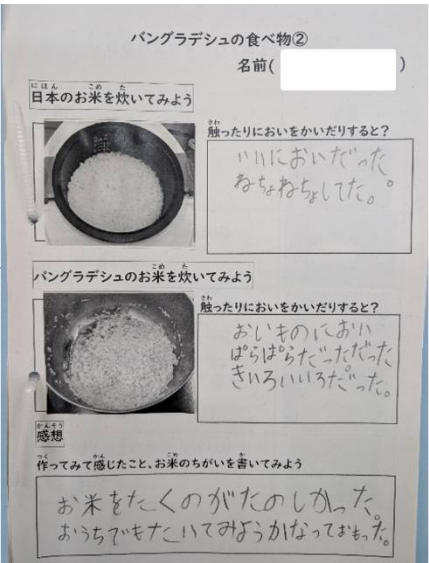
番号	説明	写真
①	お米をはかる	
②	お米をすいはんきのかまにいれる	
③	お米をあらって、水をさる	
④	目もりにあわせて水をいれる	
⑤	すいはんきのスイッチをおす	

○手順カード



○ジャポニカ米・ミニケット米



8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ・手順に沿って日本とバングラデシュの米を炊飯することができたか。【知識・技能】 ・日本とバングラデシュの米の種類や炊き方の違いに着目し、感じたことや気付いたことを表現することができたか。【思考・判断・表現】 ・バングラデシュの食文化に親しみをもち、外国の人々の生活に関心をもって学習に取り組むことができたか。【主体的に学習に取り組む態度】	
9. 学校外との連携 ※JICA 以外。なければ不要。 単元の中で現地校 Dream School の生徒へ宛てたイラストを作成。メールにて送付予定。	
10. 学びの軌跡（児童生徒の反応・変容、感想文、作文、ノートなど） 日本のお米 ・べたべた ・もちもち ・ねちょねちょ ・いいにおいだった ・やわらかい バングラデシュのお米 ・パラパラ ・べたべたしない ・かたい ・きいろだった ・いろがちがう ・おいものにおい 感じたこと ・日本のお米はしろい、バングラデシュのお米はきいろい。 ・お米をたくのがたのしかった。おうちでもたいてみようかなとおもった。 ・お米のちがいがわかった。 	

【本時または単元について、個人で振り返ったことを記載】

11. 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか	バングラデシュは、社会的・経済的に複雑な課題を抱える一方で、人々の温かさや豊かな自然に支えられた暮らしがあり、日本とは大きく異なる歴史的・文化的背景の中で社会が成り立っていることを、現地で直接学ぶことができた。 これらの経験を通して、生徒にはバングラデシュの多様な文化を伝えるとともに、異なる文化や価値観を尊重する姿勢を育むきっかけにしたいと考えた。
12. 苦労した点	体験的な活動を取り入れた内容を授業ごとに実施したため、授業準備に多くの時間を要した。特に教材作成においては、生徒が理解できる範囲に配慮しながら、バングラデシュの暮らしや文化を忠実に再現する必要があると苦労した。
13. 改善点	知識の定着に時間を要する生徒の実態を踏まえると、よりゆとりをもった授業計画とするべきであった。また、前時の学習内容を振り返る時間を十分に確保できないことも多く、改善が必要であったと考える。
14. 成果が出た点	体験的な授業を積極的に取り入れたことで、生徒の日常的な会話の中でバングラデシュに関する話題が出るなど、学習内容の定着に一定の成果が見られた。
15. 自由記述	世界の国を扱う授業は、本校において前例が少なく、不安を感じる面もあった。しかし、授業準備の段階から多くの先生方に支えていただき、給食にバングラデシュの献立が提供されるなど、想像以上に広がりのある実践となった。

